

T・ビエリッキー, Z・ウエロン, 「ポーランド Wroclaw の8~12歳児童における親子身長的相关」, その他6論文, 『ヒューマン・バイオロジー (Human Biology)』, 第38巻第3号, 1966年

Tadeusz Bielicki and Zygmunt Welon, "Parent-Child Height Correlations at Ages 8 to 12 Years in Children from Wroclaw, Poland", and other 6 articles in *Human Biology*, Vol. 38, No. 3, 1966.

アメリカ・ミシガン州デトロイトの Wayne State University 刊行の *Human Biology* という雑誌は, 人類生物学に対して基礎的な研究論文が掲載され, 人口資質問題に関する人類学的研究に非常に参考となる雑誌であるが, 特に1966年の第38巻第3号は, 人口問題研究に対し, 人口学的にも寄与する論文が多く載せてある. 人口資質問題に関係深い主な論文名を紹介すると, ① Parent-Child Height Correlations at Ages 8 to 12 Years in Children from Wroclaw, Poland, ② Hand Clasp and Arm Folting among African Negroes, ③ Further Result from a Human Fertility Model with a Variety of Pregnancy Outcomes, ④ Age at Menarche in Warsaw Girls in 1965, ⑤ The Secular Trend in the Growth and Development of Children and Young Persons in the Soviet Union, ⑥ Growth of the Head and Face in Boys of Various Ethnic Groups in the USSR, ⑦ Indexes to Mortality and Tests of Their Statistical Significance, 外3篇である.

①は197人の少年と250人の少女についての身長親子相関に関する研究であるが, 両親の中央値との相関は父または母との個別的な相関よりも高い. 父と母の個別的な相関は大体同じ位であるが, 傾向としては娘の方が息子よりも相関が強いことが述べられている. しかし筆者も言っているように環境的要因の変化作用がどの程度影響するかが問題として残されるであろう. ②は黒人種についての握力, 腕力の問題で握力についてはアフリカ黒人とブラジル黒人とは差がないが腕力に若干の差が認められたとしている. 問題は生活形態における淘汰力の問題を投げ出しているようでもある. ③は人口再生産問題については浪産問題を考慮に入れながら確率統計論的に検討がなされ, 出生間隔に関する諸問題に対して一般式にまで拡大することが可能なことを示唆しているが, 数理的処置に興味あるものにとって参考となろう. ④は初経開始問題に対する統計的研究であるが, 本誌1964年第36巻第3号に載った Zukowski のポーランド人の研究成果を批判というよりも, 否定しながらかなり統計的吟味を行っていることが注目を引いた. ⑤は成長に関する統計研究の労作で戦後の伸びを実証しているようであるが, この伸び率は日本の伸び率と対比して興味ある論文である. ⑥も同様であるが, 日本では⑥に関する普遍的な研究資料が乏しい.

以上の諸論文は東欧諸国の研究が多い. 研究方法論にはそれ程進歩したものは感ぜられないが, 彼等が人口の資質面ということに重大な関心を払っていることだけは確かである. ⑦の Index of Mortality は誠にデモグラフィックのもので標準化死亡率の問題を論じている. 理論的に4つの index を示し比較検討している. つまり C_i (the schedule of age-specific death rates of the given population), C'_i (これは base population), N_i or $\frac{N_i}{N}$ (standard population の年令構造), n_i or $\frac{n_i}{n}$ (given population の年令構造), n'_i or $\frac{n'_i}{n'}$ (base population の年令構造) の諸記号によって, Aggregative index 1 は $\frac{\sum n'_i C_i}{\sum n'_i C'_i}$

で所謂直接法である. 次が $\frac{\sum n_i C_i}{\sum n_i C'_i}$ で間接法である. 第3番目が $\frac{\sum \left(\frac{n'_i}{n} + \frac{n'_i}{n} \right) C_i}{\sum \left(\frac{n_i}{n} + \frac{n_i}{n} \right) C'_i}$ で余り一般には用

いられてないが Comparative Mortality Index と呼ばれる. 最後が $\frac{\sum a_i \frac{C_i}{C'_i}}{\sum a_i}$ で Yerushalmy (1951) によって論ぜられたが余り用いられてない. a_i は i th age interval の年次を示している.

以上の統計的に実証研究を行っていることが参考となろう.

(篠崎 信男)